Windows 2003 SP1/Windows XP SP2にAppManager Windowsエージェントを新規インストールする場合の注意

2006/6/28改定
2006/3/22作成

注意： AppManager 6.0.2aJ のメディアでは、下記問題を修正したインストーラが組み込まれています。 Windows 2003 SP1や Windows XP SP2 で Windows エージェントをインストールする場合には、6.0.2aJ のメディアをお使いください。

Windows 2003 SP1およびWindows XP SP2でDCOMインタフェースが変更になったため、Windows エージェントの新規インストールには、AppManager 6.0.2J（バージョン5では5.0J W2K3FIX）をお使いいただくようご案内しておりましたが、一部環境においてはCOMの"既定のセキュリティ"設定が壊れる問題が起きることが分かりました。
現在、NetIQ 社はマイクロソフト社に問題を報告し調査を依頼しておりますが、問題が解決するまでの間にWindows 2003 SP1/Windows XP SP2に新規にWindowsエージェントをインストールする場合には、下記の点にご注意ください。

【対象バージョン】
AppManager 6.0.2J
AppManager 5.0J W2K3FIX（エージェントフルインストーラー）

【現象】
6.0.2Jまたは5.0J W2K3FIXのCDを使ってWindows 2003 SP1/Windows XP SP2のマシンにエージェントのインストールを行うと、DCOMのセキュリティ設定が壊れ、NetIQ AppManager Client Resource Monitor が起動しない場合がある。

注意：6.0.2Jおよび5.0J W2K3FIX 以外でのWindows 2003 SP1へのインストールはサポートされていません。

【原因】
マイクロソフト社が原因を調査中ですが、Windows 2003 SP1/Windows XP SP2は、その適用前に作成された"SELF"および"SYSTEM"以外のCOMのアクセス許可の"既定のセキュリティ"があるとそのエントリを変換します。その変換されたエントリがあると上記の問題が発生します。

以下のいずれかに該当する場合は問題ありません。
- Windows 2003 SP1/Windows XP SP2を新規に導入した環境の場合
- 未だWindows 2003 SP1/Windows XP SP2を適用していない環境の場合
- COMのアクセス許可の"既定のセキュリティ"に"SELF"および"SYSTEM"以外のエントリがな

い場合

・　COMのアクセス許可の"既定のセキュリティ"に"SELF"および"SYSTEM"以外のエントリがあるが、すべてWindows 2003 SP1/Windows XP SP2で作成した場合

【回避策】

Windows 2003 SP1/Windows XP SP2にアップグレードされたマシンに、AppManagerエージェントを新規にインストールする場合は、必ずDCOMCNFGでCOMのアクセス許可の"既定のセキュリティ"に"SELF"および"SYSTEM"以外のエントリがあるか確認してください。

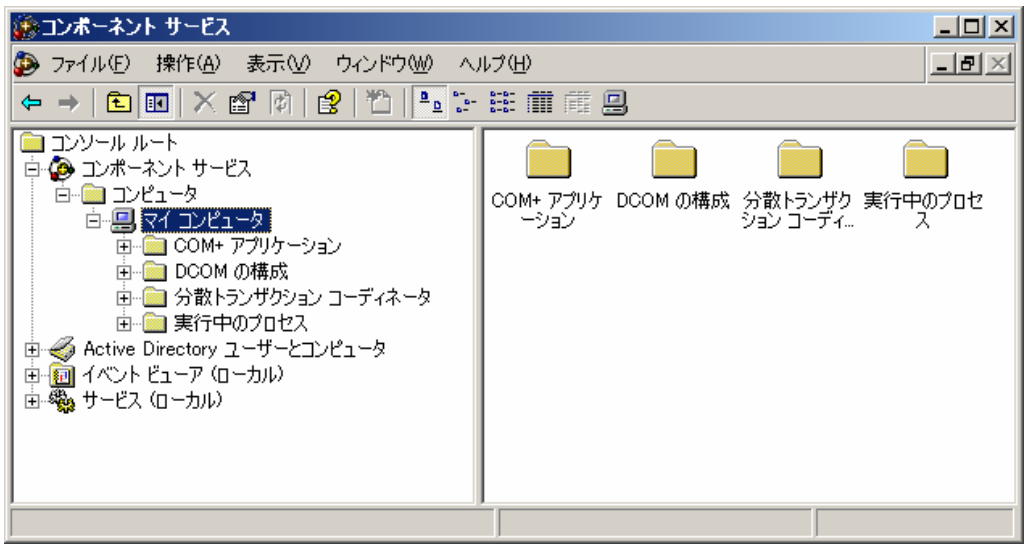
"SELF"および"SYSTEM"以外のエントリがある場合は、"SELF"および"SYSTEM"以外のエントリの設定を控えてから、一旦"SELF"および"SYSTEM"以外のすべてのエントリを削除してください。削除後、AppManagerエージェントをインストールします。インストール完了後、削除したCOMのアクセス許可の"既定のセキュリティ"を再作成してください。

"SELF"および"SYSTEM"以外のCOMのアクセス許可の"既定のセキュリティ"がない場合は、そのままAppManagerエージェントをインストール可能です。

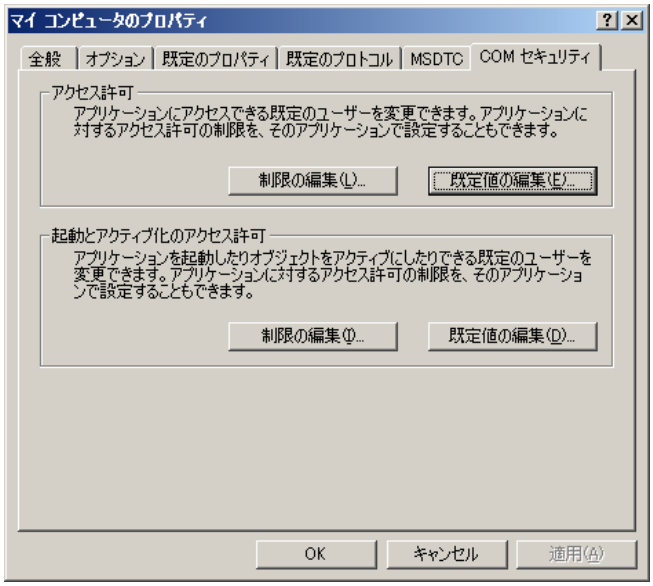
確認手順：

1. DCOMCNFGを実行します。

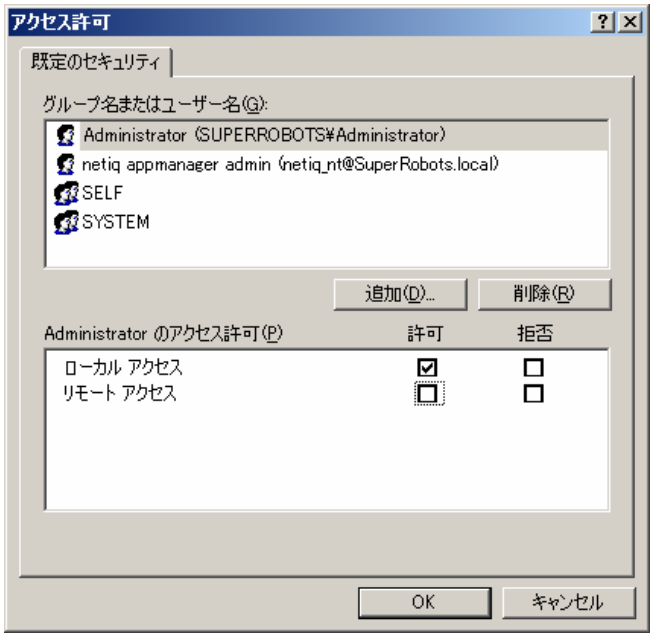
2. コンポーネントサービス ウィンドウで、コンポーネントサービス　->　コンピュータ　->　マイコンピュータを選択し、右クリックでプロパティを選択します。



3. マイコンピュータのプロパティで、COMセキュリティタブから、アクセス許可の"既定値の編集"を選択します。



4. SELFおよびSYSTEM以外のユーザやグループがある場合は、その設定を控えてから削除して”OK”をクリックしてください。下記の例では、”Administrator”と”netiq appmanager admin”を削除します



5. 削除後に、AppManagerエージェントをインストールします。

6. AppManagerエージェントのインストール終了後、アクセス許可の”既定値の編集”から削除したエントリを再作成します。

また、誤って"SELF"および"SYSTEM"以外のCOMのアクセス許可の"既定のセキュリティ"を削除せずに、AppManager エージェントをインストールしてしまい、NetIQ AppManager Client Resource Monitor が起動しない問題が発生した場合には、レジストリから、
¥¥HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Ole¥DefaultAccessPermission
を削除し、再度DCOMCNFGで必要な設定をしてください。

以上